

群 教 セ	F08 - 01
	平27.257集
	生徒指導

# 相手の気持ちを考え、行動できる生徒の育成

—相手の意見を認められる授業づくりを通して—

特別研修員 金子 平

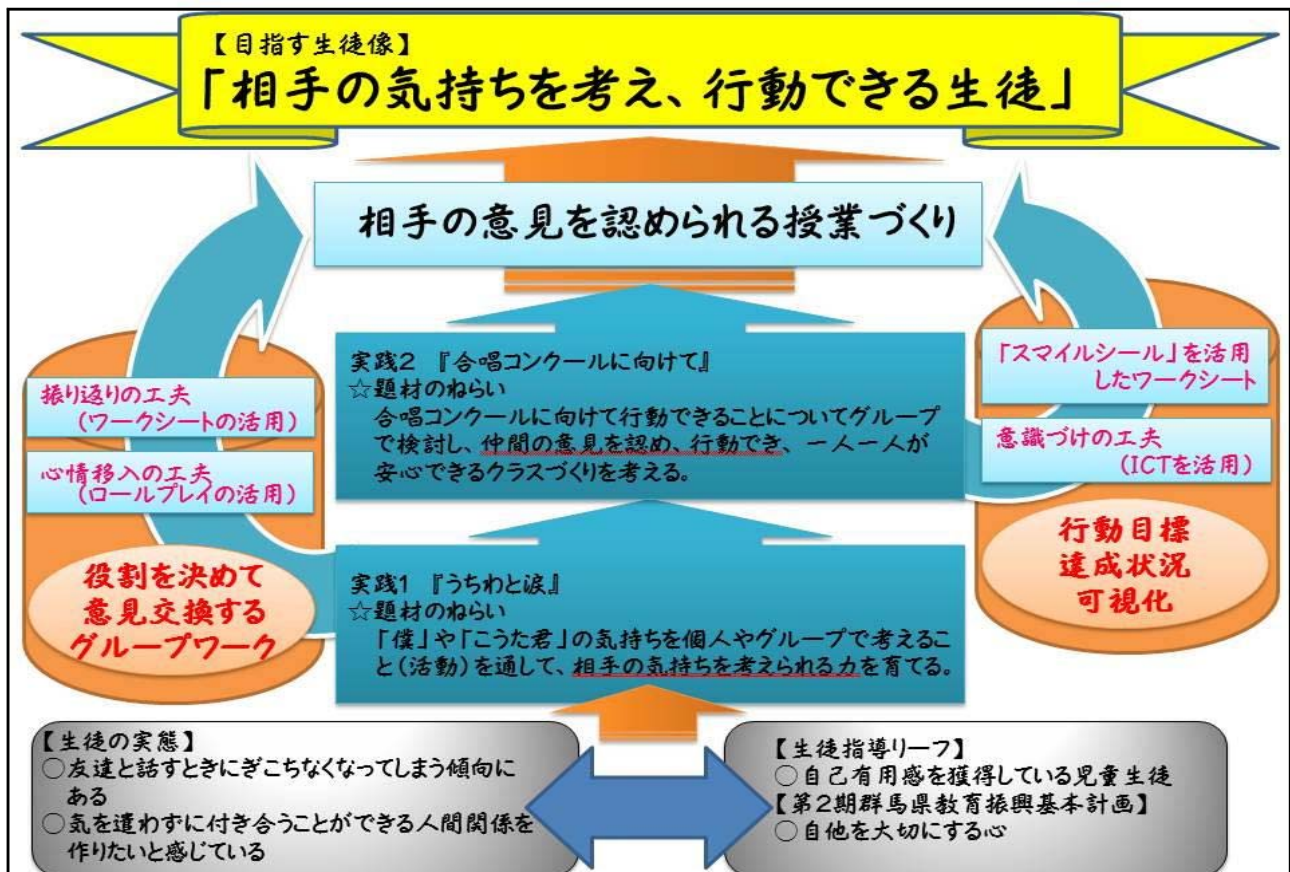
## I 研究テーマ設定の理由

生徒指導提要（文部科学省，2010:63）において、中学生前後の発達課題として、「相互に自己の存在を確認しあうところに力点のある親友関係の確立」が挙げられている。また、生徒指導リーフ（国立教育政策研究所，2013）では「相手の存在や尊厳を認めることのできる児童生徒は、自分自身も他者から認められていたり、認められた体験を持っていたりする児童生徒（すなわち自己有用感を獲得している児童生徒）」と述べられている。また、第2期群馬県教育振興基本計画（2014）の基本施策「豊かな人間性の育成」において「自他を大切に作る心」の育成を取組の柱として設定している。

2015年4月に実施した現任校における生徒実態アンケート調査では、96%の生徒が「1年1組は楽しい」と答え、100%の生徒がクラスの中で、「優しくしてくれる生徒がいる」と答えている。しかし、悩みがあるかという質問に対して「友達と話すときにぎこちなくなってしまう」、「表面上は上手く付き合っているが、気を遣わずに付き合うことができる人間関係を作りたい」などの意見が複数あった。生徒にとって友人関係や環境に変化があり不安を抱える中で、自分のことを認めてくれ、相手のことを認められる人間関係の構築は必要不可欠であり、生徒も良好な人間関係の構築を望んでいるという実態が浮き彫りになった。これらのことから、サブテーマにある相手の意見を認められる授業づくりを通して、「相手の気持ちを考え、行動できる生徒」を育成することは重要であると考え、本研究テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

### 実践1における研究上の手立て

主題名 「うちわと涙」1年生（道徳）

#### (1) ロールプレイを取り入れた心情移入の工夫

- ・授業の導入で、「僕」と「こうた君」役のロールプレイを取り入れ、より臨場感を出すことで、本文の「僕」の気持ちに迫らせる素地を作る。

#### (2) グループワークやワークシートの工夫

- ・グループは4人編成とし、役割分担を明確に決めた上で活動させ、グループワークで各自の感想などを意見交換させることで、他の人の意見から気づき、考える姿勢を身に付けさせる。
- ・まとめのシートには、グループで協力しながらうちわの絵を描いたり、意見を記入したりさせることで、愛着を湧かせるとともに、授業終了後には各グループでまとめたシートを教室に掲示し、意見の共有化と本時の振り返りができるように工夫する。

実践1において「相手の気持ちを考える」ことは、生徒一人一人が授業を通して行うことができた。この気持ちを言葉や行動に移せるように相手の良い面を見付け伝える活動を、各行事や普段の生活や道徳・学級活動などの授業で意図的に取り入れた。その後の実践2では次のような手立てを行った。

### 実践2における研究上の手立て

議題名 「合唱コンクールに向けて」1年生（学級活動）

#### (1) ICTを活用した意識付けの工夫

- ・導入段階で、合唱の魅力や団結することの必要性について考えるきっかけを持たせ、グループワークの活性化を図るために、ICTを活用し動画を視聴させる。

#### (2) ワークシートの工夫や「スマイルシール」の活用

- ・各班の生徒が1枚のワークシートにまとめて書くことで、他の班員の言葉を聞きながら自分の行動目標を立てることができるようになる。授業終了後、教室に掲示をして、行動目標が達成できた場合には、シートに「スマイルシール」を貼付し、視覚的にも行動していることが分かるようにする。
- ・朝の会や帰りの会等で、「スマイルシール」を貼った生徒に「なぜ、貼ってくれたのか」について発表させることで、お互いを認め合う場を持つことができるようにする。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- ロールプレイやICTを導入の段階で活用することは、生徒が授業に真剣に取り組む素地を作ることができると同時に、グループワークの活性化や、本時のねらいを達成するために効果的であることが分かった。
- グループワークの中で意見交換をし、自分の意見との共通点や相違点を認識し、グループ内の意見をまとめることによって、相手の気持ちを考えようとする生徒一人一人の意識が更に深まることが明らかになった。
- ワークシートの工夫や「スマイルシール」の活用によって、自分がクラスの中で認められる一つの要素になり、相手の良いところを見付けようとする効果があることが分かった。また、相手の気持ちを考えながら行動したことによって、相手の立場に立って行動する生徒が増え、今まで以上に人間関係が深まり、笑顔で協力し合う生徒が4月に比べて増えたことが観察によって見えた。実際、欠席が多かった生徒が「学校が楽しい」という前向きな意見を持つようになり、欠席が大幅に減った。

### 2 課題

- 相手の気持ちを考え行動に移すことはできるようになったが、更に積極的な行動に移していくために、「スマイルシール」を継続的に活用し、生徒の多様なよさを引き出し、行動に移せる場面をどのように設定していくかを検討する必要がある。

## <授業実践>

### 実践 1

#### 1 主題名 「うちわと涙」(第1学年・1学期)

#### 2 資料及び本時について

本資料は、中学生と幼稚園児との交流会が舞台となっている。中学生にとって、年齢が大きく違う幼稚園児の行動や発言を理解するのは難しいが、自分が一生懸命に取り組んだことは相手に通じるということを最後に理解でき、思いやりの心を学べる資料である。他の人へ親切にすること、思いやりの心を持って人に接することは、些細なことだがとても大切なことである。一步踏み出せずに、「まあいいや」と逃げてしまうのではなく、いつもやさしい心を持ち、何かあったときに声をかけるなど、気持ちを行動に移せるようにさせたい。

#### 3 授業の実際

活動の流れは、以下のように行った。

導入：一生懸命にうちわであおぐ。(ロールプレイの導入)

展開：グループを作り、「相手の気持ちを考える」とは何か考える。(グループワーク)

まとめ：授業を振り返りながら、これからの生活の中でクラスの仲間に対して心がけていきたいことを考える。

##### (1) ロールプレイの導入

本時のめあてを伝えた後に、生徒全員に用意したうちわを配布し、隣の生徒同士でペアを組ませた。そして、「僕」役と「こうた君」役を交互に行い、1分ずつうちわであおぐ活動を行った(図1)。うちわであおいでもらう「こうた君」役の生徒には臨場感を出すために暑そうな顔や嫌な顔を意図的にするように伝えた。教師が予想していた「疲れた」などの意見が出てきたことで、本文の「僕」の気持ちに迫る素地を作ることができた。



図1 うちわであおいでいる様子

##### (2) グループワーク

個人で考えた発問を基に、グループワークを行った。グループワークは4人編成とし、その中で「司会役」「まとめ役」「発表者役」を教師側が決めて話し合い活動に入った(図2)。グループワークでは、個人で考えた意見を発表してグループの意見をまとめる形式で行うようにした。最初はぎこちない面もあったが、回数を重ねていくうちに自分の役割を理解して活動し、活発な意見交換ができるようになった(次頁図3)。また、意見をまとめることができた班については、ワークシートにうちわの絵を自分たちで描かせたことによって、自分たちのワークシートに愛着を持つことができた(次頁図4)。



図2 授業の様子



図3 グループワークの様子

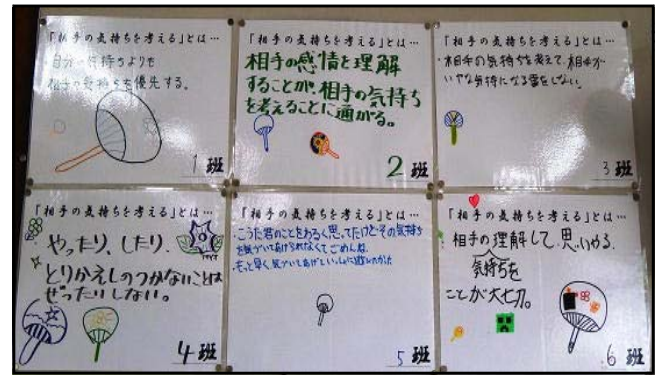


図4 各班で作成したワークシート

### (3)まとめ

授業のまとめにおいて、「発表者役」が各班から出てきた意見を発表した。その後、教師の思いを黒板に掲示し、担任として今後につなげてほしいことを話した(図5)。振り返りの時間がなくなってしまい、宿題ということで翌日提出してもらったが、生徒一人一人が今回の授業を受けて考えたことなどを書くことができた(図6)。



図5 板書の様子

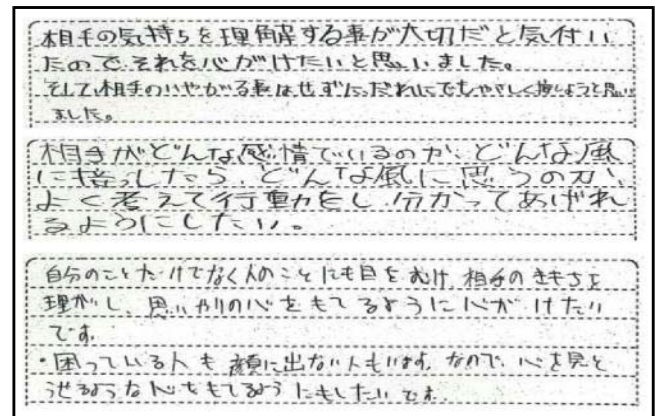


図6 ワークシート個人の記述

## 4 考察

- 授業後に実施したアンケートから、92%の生徒がうちわであおぐロールプレイを有効だと答えた。その理由として「その時の気持ちが分かるから」という意見が多かった。これは、ロールプレイを取り入れたことで、お互いに気持ちを感じ取ることができたため、その後の本文の「僕」の心情を考えるために効果的であったと言える。
- 「グループワーク」において、各班から「相手の気持ちを理解して、思いやることが大切」、「相手の気持ちを考えて、相手が嫌な気持ちになることをしない」、「相手の感情を理解することが、相手の気持ちを考えることにつながる」といったねらいに迫る意見が出された。また、ワークシートの発問「これからの生活の中でクラスの仲間に対して心がけていきたいこと」に対しての回答も21名(87.5%)の生徒が同様の意見を書くことができた。このように肯定的な意見が多く出された理由として、グループワークにおいて役割分担を明確化したことで、生徒全員が意欲的に話し合いに参加できたことや、一人一人が他の生徒の意見を聴き、自分の意見との共通点や相違点を見いだせたことが考えられる。これらのことから、グループワークの工夫は、ねらいを達成する上で有効に機能したと言える。
- 3名(12.5%)の生徒は「今のままで良い」や「いくらつまらなくても声をかけ続けようと思った」という意見だった。これは、本文にある表面上の「僕」の言葉をとらえてしまったと考えられる。そこで、言葉や文字だけでなく、その裏にある心情をつかめるようにしていきたい。

今後の学校行事(運動会や合唱コンクール)では、生徒たちが協力しながら活動することが増える。このような活動の中で、実践授業において「相手の気持ちを考えると」で出された意見を生かしながら、学校生活の様々な場面で考えるだけでなく言葉や行動に移すことができるようにつなげたい。

## 実践 2

### 1 議題名 「合唱コンクールに向けて」(第1学年・2学期)

### 2 本議題及び本時について

本議題では、文化祭の行事の一つである合唱コンクールに向けて、めあてを「合唱コンクールに向けて、一人一人ができることを考えよう」とした。実際、5名の生徒が歌うことを苦手としており、どうしたらみんなが気持ちよく合唱に取り組めるかを考えることで、相手の気持ちを考えて、それを行動に移せるように考えた。また、ワークシートの活用によって相手が自分を認めてくれるような活動を取り入れることで、クラスの中で認められ、必要とされているという自己有用感の向上につながると考えた。

### 3 授業の実際

活動の流れは、以下のように行った。

導入：自分のクラスの合唱の様子を撮影したビデオと、2015「NHK合唱コンクール」金賞校のビデオを視聴する。(ICTの活用)

展開：グループを作り、合唱練習を通しての課題や、どうしたらクラス全員が気持ちよく合唱に取り組むことができるか、合唱コンクールに向けて自分がクラスの仲間のためにできることを話し合う。(グループワーク)

まとめ：今日の授業を振り返り、自由曲「あさがお」を合唱する。

#### (1) ICTの活用

グループワークに入る前に、まずは自分たちの合唱のビデオを視聴した。自分たちのビデオを見るということで恥ずかしそうにしている生徒が多かった(図7)。そこで、自分たちの歌っている表情や雰囲気注目させて見るように伝えたことで真剣に見るようになった。

その後、2015年NHK合唱コンクール金賞校のビデオを見せた。この時も、技術的なところではなく歌っている表情や雰囲気に着目して見るように伝えたところ最初から食い入るようにビデオを見ていた。自分たちの合唱と金賞校の合唱の違いを生徒たちが感じ取ることができた。



図7 ビデオ視聴の様子

#### (2) グループワーク

今回の授業では、生徒たちが考えたことを一枚のシートの中に書き込めるようにワークシートを工夫した(図8)。

グループワークでは実践1と同じように、各班4人編成とし、「司会役」「まとめ役」「発表者役」を決めてグループワークを行った。まず課題について話し合わせたか、各班から「歌に集中していない」などの意見が出た。その課題を基に、「クラス全員が、どうしたら気持ちよく合唱に取り組むことができるか」を考え、一枚のワークシートに記入した。少し時間がかかってしまったが、生徒一人一人がクラスのために真剣に考えていた。

「どうしたら気持ちよく合唱に取り組むことができるか」 班			
「クラスの仲間のためにできること」			
氏名	氏名	氏名	氏名
できていたら「スマイルシール」を貼ってあげよう!			

図8 授業で使用したワークシート

また、歌が苦手な生徒たちもクラスのためにできることを真剣に考えている姿を見ることができた。その後、「発表者役」が各班でまとめた意見を全体に発表した（図9、図10）。



図9 「発表者役」による発表の様子

- 1班：一人一人が自信を持って支え合う
- 2班：みんなが歌いやすい環境を作る
- 3班：一人一人の気持ちを1つにして歌う
- 4班：誰かが間違ってもそれをサポートする
- 5班：みんなで一致団結して精一杯歌う
- 6班：歌うのが得意な人がリードする

図10 各班から出てきた意見

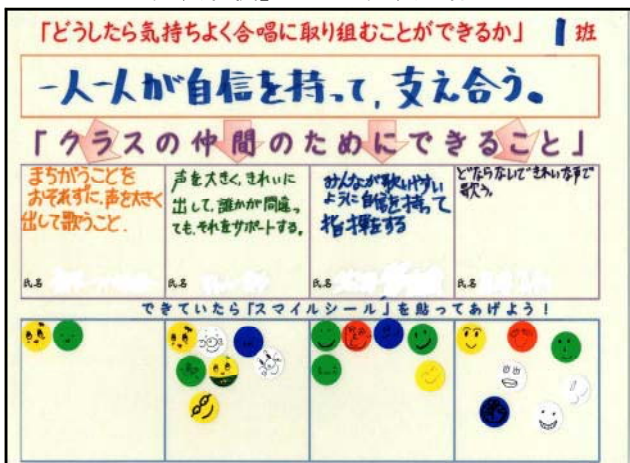


図11-① 各班のワークシート



図11-② 各班のワークシート

### (3) まとめ

授業のまとめとして、教師の思いを黒板に掲示した上で、今回考えた「スマイルシール」の使用方法を説明した。この「スマイルシール」は生徒一人一人に作成してもらい、個人で立てた目標ができていたら「スマイルシール」を貼ってあげるといものである（図11-①、図11-②）。この活動を通して、友達の良い面を見付けるとともに、自分が友達に良いところを見付けてもらいながらお互いのよさを認め合うことをねらいとした。そして、本時の授業で考えたことを振り返りながら、最後に全員で自由曲「あさがお」を歌った。

## 4 考察

- 授業終了後に実施したアンケートから、96%の生徒がビデオ視聴はグループワークの活性化を図るために有効であったと答えている。その中で「自分たちの合唱の様子を振り返り、改善点が分かって、もっと良い合唱になると思ったから」という理由が書かれていた。また、参観された先生方からも「ICTの活用により、本時のねらいをより明確にすることができた」などの意見をいただくことができた。これは、ICTを活用し金賞校のビデオを見たことで、合唱の魅力や自分たちの課題が浮き彫りになり、その後のグループワークの活性化につながったと考えられる。
- 96%の生徒が、ワークシートの工夫や今回使用した「スマイルシール」は自分の考えを行動に移す上で有効であると答えている。「自分の目標を立て、人に評価してもらうことで、やる気が出るし、みんなが頑張ってるから私も頑張ろうと思う」という理由が書かれていた。先生方からは「スマイルシールの活用は『友達から認められた』という自己有用感や学級への所属感を育てるだけでなく、友達の良いところに気付き、認めようとする意識を持たせることにもなり、学級経営に役立つ方策の1つと感じた」という意見をいただいた。これはワークシートを利用してグループワークや「スマイルシール」の活用を行ったことで、相手の意見を聴いた上で相手の考えを認めることができる手立てとなっているだけでなく、生徒たちの自己有用感を育むために有効な手立てであったと考えられる。